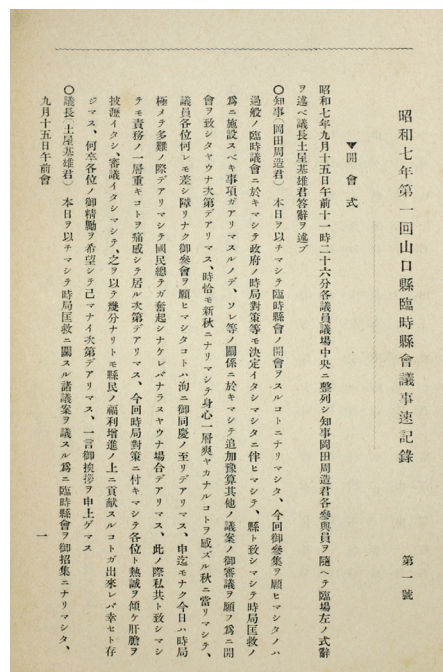
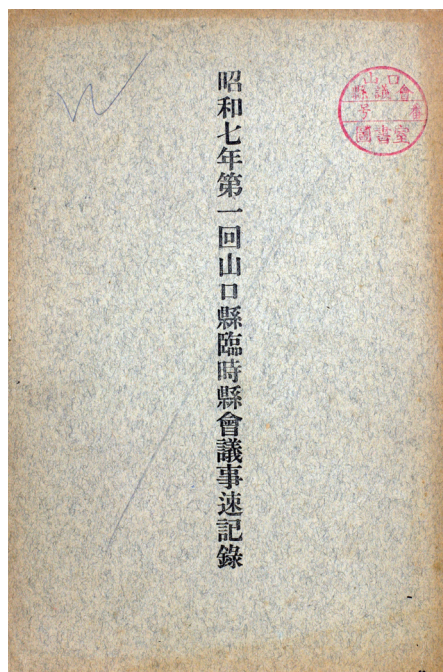


昭和恐慌からの脱出模索（時局匡救事業）



* 議会議務局867

「昭和七年第一回山口県臨時縣會議事速記録」

解説

第一次世界大戦中は大战景気に沸きましたが、その後、日本の経済には好況の時期はほとんどありませんでした。

1927（昭和2）年の金融恐慌、さらに1929年にアメリカで始まった世界恐慌により、日本経済は大きな打撃を受けました（昭和恐慌）。

五・一五事件後に首相となった齋藤実は、疲弊した農村を救済する目的で、土木工事を中心とする時局匡救（きょうきゅう）事業を開始しました。

これを受け、山口県においても緊縮財政から積極財政への転換が図られました。写真は「昭和七年第一回山口県臨時縣會議事速記録」です。岡田知事は、この臨時議会において時局匡救事業に関する議案説明を行い、その冒頭で次のように不況にあえぐ社会の現状を述べています。

「今や我国ハ外交ニ内政ニ未曾有ノ重大時局ニ直面イタシマシテ、殊ニ近時ニ於ケル経済界ノ不振ハアラユル国内産業ヲ萎縮不振ニ陥ラシメ、都市ト謂ハズ農山漁村ト謂ハズ疲弊困憊（こんぱい）漸ク甚シキヲ加フルノ実状デアリマシテ、能ク此ノ難局ヲ打開イタシマシテ百万県民ノ生活ヲ確保シ民心ノ安定ヲ期スルコトハ、実ニ一日ヲ緩フスルコトノ出来ナイ急務デアルト考フルノデアリマス」

* 時局匡救事業に関する資料として「時局匡救土木事業補助収支計算書」（戦前B港湾課2886）、「匡救土木事業 榎野（ふしの）川改良工事誌 第1輯 榎野川竣工記念」（30内務-3）、「昭和11年5月農村振興匡救土木事業 榎野川改良工事誌 第2輯榎野川竣工記念」（30経済-3）などがあります。